清	明		元	VI-	金	宋	!			唐			隋	五	代	後	漢	前	漢	春和	火戦	_ 国 漢
江戸	■ 戦国				鎌倉 平氏			平安			奈良				大和朝廷 古墳ローマ帝国		黄豆	弥生	ーマキ	縄文	方医学質	
- 7 9 9	- 一 五 ュ 九	一五七八	一五三二頃	一三八〇頃	— 四 四	一〇六五	九六〇	九八四	七五三	七01	六五〇	六八	六〇一		二六五	二〇五頃		二五五		前二〇二	前 五〇〇頃	漢方医学簡易年表
日本 古方派隆盛 医界の主流となる清中国プ酉 『傷寒記』研究派名	青中国发记。『楊寒魚』开究流示明,趙州 美人一件景全書」刊行	明 李時珍『本草綱目』	足利学校の田代三喜 ―→ 曲直瀬道三	日本 金元医学の導入	金成無己『註解傷寒論』十巻	宋版『傷寒論』『金匱要略』発刊	宋建国	日本 丹波康頼「医心方」	王燾『外台秘要』	日本 大宝律令医疾令	孫思邈 『千金方』『千金翼方』	唐建国	隋 巣元方『諸病源候論』	晋 王叔和 『傷寒論』整理編集	武帝 晋建国	張仲景『傷寒雑病論』十六巻	『神農本草経』	後漢建国	『黄帝内経』原型成立	前漢建国	扁鵲の活躍時代	伝説時代 黄帝、神農等

『傷寒論』の整理、編集、刊行に貢献した人々

王叔和(三世紀)

西晋の著名医家、太医令。古代脈学を系統化した「脉經」の作者。

『傷寒論』の整理編集に当たり、『傷寒論』の最古のテキスト作成。

林億(一一世紀)

北宋の医家。北宋政府設立の「校正医書局」の責任者の一人で、

十余年かけて『素問』『霊枢』『難經』『傷寒論』』・金匱要略』『脉経』

『諸病源候論』『千金方』『千金翼方』『外台秘要』等の古医書の校

訂、刊行事業を完成させた。この傷寒論を『宋版傷寒論』と称す。

成無己 (一二世紀)

金代の医家。『内経』『難經』等の古医書の理論により『傷寒論』を『

註解書である。その他「傷寒明理論」「傷寒論方」などで後世の『傷 研究。『注解傷寒論』一〇巻は現存する最古の『傷寒論』の全面的

寒論』研究に多大の影響を与えた。

趙開美(一六世紀)

明時代の官僚で蔵書家。一五九九年「仲景全書」を刊行。

現在『宋版傷寒論』の現物は一冊も現存していないが「仲景全書」

えていると考えられるので、現在これが『趙開美本宋版傷寒論』 に復刻された『傷寒論』が『宋版傷寒論』の内容を最も忠実に伝

として『宋版傷寒論』の正式テキストになっている。

歴代『傷寒論』研究を発展させた人々

黄 煋 著 「中医伝統流派の系譜」より

通俗傷寒派

北宋時代に成立し明清年間に発展した広義の傷寒即ち外感熱病の

弁証論治体系を構築した。理論より臨床の弁証論治能力を重視。

宋時代の医家。「類証活人書」二十巻。

兪根初 清時代乾隆・嘉慶年間の名医。「通俗傷寒論」。

弁証傷寒派

『傷寒論』を単に外感熱病治療の専門書とするのではなく、内傷雑

病もまた『傷寒論』の理論と薬方によって治療できると主張した。

方有執(一五二二~?)清時代の医家。「傷寒論条弁」。

舒馳遠 清朝雍正・乾隆年間の名医。六経弁証を強調「傷寒集注」

注」の中で始めて処方名を証の名称とし、方証名を各篇の表題と 柯琴(一六六二~一七三五)清代。「傷寒来蘇集」八巻中の「傷寒論

して原文に付け加えた。

経典傷寒派

清朝末期より中華民国時代初期、流行の温病学説を否定し、『傷寒』

論』こそが外感熱病を治療する基礎であると主張し実践した。

陸九芝 仲景方を主体として臨床治療を行い、清熱法が得意であった。 清朝末期に活躍、「世補斎医書」。温病は陽明病と主張、

sht © 2012 KOSEI TAKAYAMA. All Rights Reserved. Produce by TOYO GAKUJUTSU PUBLISER Co.,Ltd.

傷寒六経の特質(陽病期)

	カタメし	1寸1以	까 忠		かに計正	加友 正正	冶煤 原則	土は処力
陽			虚	正常	浮緩	特別な	辛温解表	桂枝湯
		表証	中風			腹証は	(発汗解肌)	
	太陽病	頭痛	実	時に	浮緊	ない		麻黄湯
病		発熱	傷寒	少紅				
		悪寒						
71/31 -		経証	熱証	紅	洪大	発汗	清熱	白虎加
	陽明病	腑証	胃実	乾燥	沈実	鞕実満	瀉下	人参湯
		潮熱、		黄苔		圧痛		調胃、大
期		譫語				便秘		承気湯
别	少陽病	半表	往来寒熱	淡紅	弦脈	胸脇苦満	和解	小柴胡湯

薄苔

心下痞鞕

大柴胡湯

口苦目眩

傷寒六経の特質(陰病期)

病気		特徴	病態	舌証	脉証	腹証	治療原則	主な処方
		裏証 (消化 器に限定)	脾陽虚	湿潤		虚満 全体的に軟	温裏散寒	人参湯
	太陰病	発熱なし腹満下痢腹痛	裏寒腹痛	白 苔	沈弱	いが時に抵 抗圧痛		桂枝加 芍藥湯
陰病	少陰病	裹証 (心、 腎の衰弱循 環障害に及 ぶ)悪心(+)	虚寒証	湿潤	沈微弱	軟弱無力 時に心下痞	回陽救逆	四逆湯 真武湯
期		発熱(一) 下痢、胸苦 四肢厥冷	虚熱証	薄白苔	沈細数	や腹皮拘急 圧痛	清虚熱	黄連阿膠湯 猪苓湯
	厥陰病	<mark>裹証</mark> (陽虚 上熱下寒) 寒熱錯雑 厥逆	寒 証 熱 証 陰盛亡陽	舌淡、乾、 無苔また は薄白苔	沈微細	軟弱無力胸内苦悶	不定 (臨機応変)	当帰四逆加 呉茱萸生姜湯 麻黄升麻湯

『傷寒論』の六経病(三陰三陽)の構成

:桂枝湯、桂枝加葛根湯、桂枝去芍藥湯、桂麻各半湯、桂枝加厚朴杏子湯 経証 :麻黄湯、葛根湯、葛根加半夏湯、大青竜湯、小青竜湯、麻杏甘石湯 太陽病 太陽蓄水証 : 五苓散 腑証 太陽蓄血証: 桃核承気湯、抵当湯、抵当丸 陽病 経証 陽明経証(内外熱盛):白虎湯、白虎加人参湯、茵蔯蒿湯、梔子柏皮湯、麻黄連軺赤小豆湯 陽明病 腑証 陽明腑証(胃家実、及び虚寒証) :調胃承気湯、小承気湯、大承気湯、呉茱萸湯、麻子仁丸 少陽病 半表半裏証:小柴胡湯、大柴胡湯、柴胡桂枝湯、柴胡桂枝乾姜湯、柴胡加竜骨牡蠣湯 その他の病証:虚煩証、結胸証、痞証、痺証、他:大小陷胸湯、白散、梔子豉湯類、半夏瀉心湯、瓜蔕散、甘草附子湯 傷寒 脾胃虚寒証:四逆輩(理中湯、四逆湯など)、茯苓甘草湯 太陰病 . 脾胃陰陽不和証 : 桂枝加芍薬湯、桂枝加大黄湯 陽虚裏寒証:四逆湯、麻黄細辛附子湯、麻黄附子甘草湯、真武湯、附子湯、桃花湯、白通湯、猪膚湯 陰病 少陰病 : 黄連阿膠湯、猪苓湯、甘草湯、桔梗湯、苦酒湯 陰虚熱化証 四逆厥冷証 :四逆湯、当帰四逆湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯 厥陰病 寒熱錯雑証 : 烏梅丸、麻黄升麻湯、乾姜黄芩黄連人参湯 回陽過剰熱証 :四逆散、白虎湯、小柴胡湯、白頭翁湯

傷寒六經と臓腑經絡

傷寒六經の病変は臟腑經絡と対応している。

太陽病 膀胱、小腸。足太陽膀胱経、手太陽小腸経

陽明病 胃、大腸。足陽明胃経、手陽明大腸経

少陽病 胆、三焦。足少陽胆経、手少陽三焦経

太陰病 脾、肺。足太陰脾經、手太陰肺経

少陰病腎、心。足少陰腎経、手少陰心経

厥陰病 肝、心包。足厥陰肝経、手厥陰心包経

臓•陰経脉

腑•陽経脉

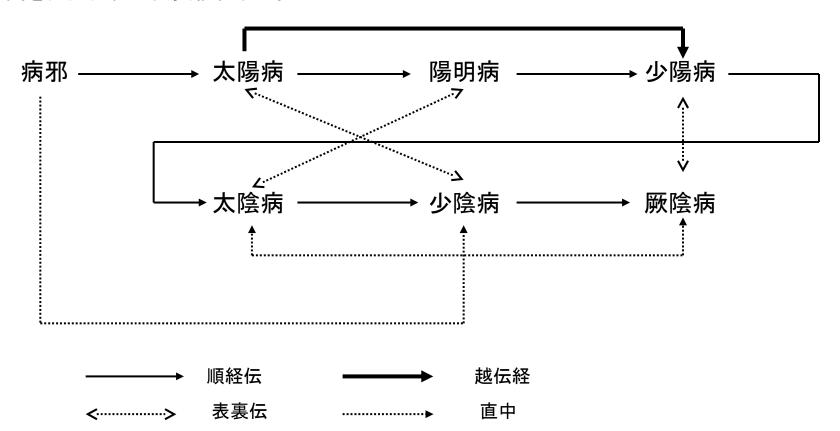
六経の各経はすべて手足二経に別れ合計十二正経である。各経は総て臓腑と連結しており、各臓腑は経脉を介して互いに影響し合い不可分の関係にある。臓腑経絡上も三陽病は陽、三陰病は陰となる。

六經の各病期ではまず所属する臓腑経絡の病理変化が現れる。

Copyright © 2012 KOSELTAKAYAMA, All Rights Reserved, Produce by TOYO GAKUJUTSU PUBLISER Co., Ltc

六経病の伝変

通常病は表から裏へ、浅から深へと侵入するが、臓腑経絡は互いに連携しているので、病邪は六経の間を自由自在に伝変移行する。



伝 経:一つの経に入った病邪が別の経に伝わり移動すること。

直 中:傷寒の邪が表に中らず直接裏に入るもの。

合 病:二つあるいは三つの経が強い病邪に同時に侵されること。

併病:一つの経の病邪の一部が他の経に波及するもの。不完全な伝経である。 Copyright © 2012 KOSELTAKAYAMA, All Rights Reserved, Produce by TOYO GAKUJUTSU PUBLISER Co.,Ltd